

地方移住ゼミ フィールドワークの結果について

ゼミ立ち上げ人：徳永耕介

これまでのゼミ活動と今タームの活動について
・テーマである南魚沼市について知った
・同じ新潟県内で、移住し事業を営んでいる人にインタビュー
→実際に南魚沼市に訪問し、移住促進や雇用促進に関する情報を集める

インタビュー結果

(一社)南魚沼市まちづくり推進機構
・移住相談、起業支援を主な事業としている地域再生推進法人

インタビューの概要
・移住者の内、若者はUターン者が多い。
・その若者の分析が進んでおらず、今後の傾向分析が必要
・移住してからの生活コミュニティが重要なのではないか？
・Uターン者、市内にずっと在住している人の起業の割合が高い。(地域資源を活用した創業が多く、都市部と地元の知見を併せ持つUターン者が有利か)

南魚沼市役所農林課
・農業と林業、国土の分野で管理や調査、補助金の交付を行う

インタビューの概要
・市が2022年度から取り組んでいる「ふるさと里山再生整備緊急5カ年事業」で、市内の里山整備が進んでいる
・里山整備を通じて、時代の流れによって機会が失われた子供が山に触れる機会を提供する事例が生まれている
・里山は害獣対策や災害対策の観点もそうだが、地域社会の結束や教育分野での活用も期待される

フィールドワークの実施
期間：9/8～9/15
訪問先：(一社)南魚沼市まちづくり推進機構、南魚沼市役所U&Iときめき課、農林課、東地区地域づくり協議会

南魚沼市役所U&Iときめき課
・2017年に新設された地方創生や、人口減少対策、まちづくりの取り組みを担う

インタビューの概要
・平成16年～17年の3つの町の合併によって、職員数は溢れる形になり、定員管理計画によって段階的に減らしてきた
・最近では、就職者よりも退職者の方が多い年もあり不安定
・市として職員の雇用促進の取り組みを行っていない
・新卒対象のインターンを実施するとしても、議会対応などの繁忙期を考慮する必要あり

東地区地域づくり協議会
・市民主体のまちづくりを推進するための一つの施策として市内を12区画に分け、コミュニティ形成を図る

インタビューの概要
・以前は地域づくり協議会がなくても、地域のイベントを運営しそれに子供が参加する教育的な役割を担っていた
・人口減少によって、地域の自治組織は機能不全に陥りイベントは無くなり、用水路の管理などもいい加減になりつつある
・地域づくり協議会の役割は、このような自治組織を従来より広域で行なっていくことだ



塩沢 牧之通り



里山整備の様子

今後の取り組み
・今回の情報をベースに、若年の、特に大学に在学している層をターゲットにした事業計画を立案
・南魚沼市との連携をとりながら、若者が地域に入っていける・馴染める・ずっと残っていきたいと思える環境を構築